

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
税務会計論 I	~218	3・4年生・前期	2	選	春日 克則	
履修の前提条件	「会計学入門」や「簿記」を履修済か同程度の知識を有することが望ましいが、何よりも、税金に興味を持っていることが必要である。					
授業概要 (Course Outline)						
税は、取る者と取られる者との戦いの歴史といえる。例えば、株式会社などの所得(利益)に課せられる法人税は、国から見ると(個人)所得税と並ぶ大きな財源となっている。反面、納税者の側からは、住民税、事業税を合わせると法人所得の約40%が徴収されることになる。そこで、税務当局と納税者の利害が激しくぶつかることになる。「税務会計 I」では、この戦いをどのように終わらせ、どうしたらお互いが納得できるかの仕組みを学ぶ。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	問題解決力 Problem Solving					○
	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					○
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					
	生涯学習力 Lifelong Learning					○
到達目標 (Objectives)						
税を学ぶ場合に、最も重要な原則は租税法律主義である。この原則は、納税者の代表が決めた法律によってしか税を課すことができないというものである。そこで、この授業では、国と納税者が争った判例をみることによって、租税法律主義を具体的に理解することを目標とする。同時に、納税者の税金逃れを防止する方法(租税公平主義)についても理解する。						
事前学習の内容	プリントを予め配布するので、わからない点が自覚できるようにしておきたい。					
事後学習の内容	毎回、練習問題を提出・返却するので、指摘された課題に取り組む必要がある。					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
授業では、抽象的な理論を具体的な課題に応用できるよう、毎回、事例や練習問題に取り組む。その成果を、授業の最後に提出してもらい、翌週添削して返却する。課題を提出する際には、授業中に疑問に思ったことや、わからなかったことを記入する。また、返却された課題には、私のコメントが書いてあるのでお互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
木曜日の5時限目に、非常勤講師室で対応する。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
外部試験: 税のスペシャリスト=税理士試験の基礎となる授業である。 学習の確認: ポートフォリオ(科目別履修確認チェック表)に必要事項を記入して、指定日時に、春日までメールで提出すること。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	サラリーマンなのに37年間、所得税を納めなかった男－申告納税制度－		
第2回	税を学ぶ場合に最も重要な原則「租税法律主義」		
第3回	ホステスの報酬にかかる源泉徴収事件－租税法律主義を考える①－		
第4回	1600億円をタダでもらっても税金はゼロ？(武富士事件)－租税法律主義を考える②－		
第5回	納税者と税務署長、どちらが正しいのか(武富士事件のてんまつ)－租税法律主義を考える③－		
第6回	レーシングカーと軽自動車は同じ？(レーシングカー事件)－租税法律主義を考える④－		
第7回	中間テスト－これまでの判例を論理的に考え説明できるかのテスト－		
第8回	税金を逃れる方法－租税回避－		
第9回	同族会社の判定①－特殊関係人－		
第10回	同族会社の判定②－特殊関係法人－		
第11回	同族会社の特別規定－行為・計算の否認と留保金の特別課税－		
第12回	高額な管理料を同族会社に支払ったら損か得か？－同族会社を利用した租税回避事件－		
第13回	国際的な税金逃れを防止する①－移転価格税制－		
第14回	国際的な税金逃れを防止する②－タックスヘイブン対策税制－		
第15回	税務会計論 I のまとめ		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
租税法入門(上巻)【第2版】	福浦幾巳	中央経済社	978-4-502-18611-0
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
よくわかる税法入門	三木義一	有斐閣	978-4-641-28142-4
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは、評価のウエイト(40%)に留まらず、テスト問題を解くための大きな手助けとなる。			